



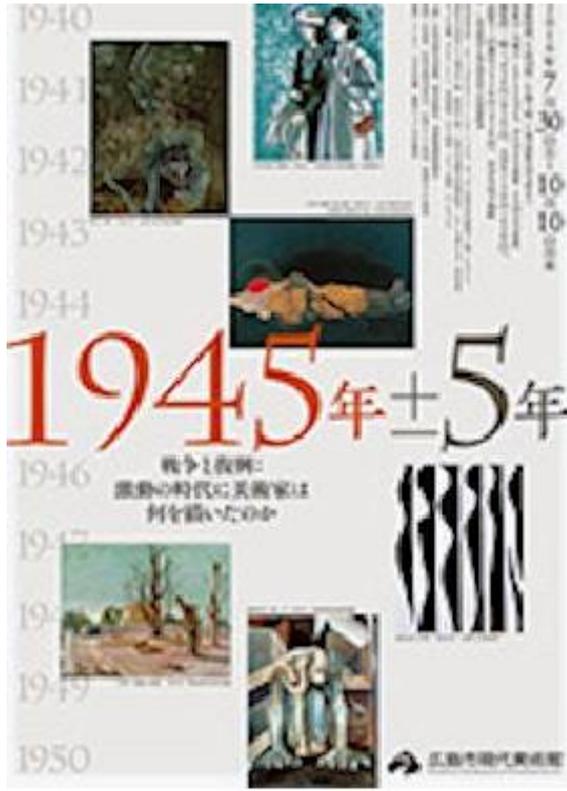
発行：アグリーシステム 週刊芸術新聞編集部
 本社：千葉県茂原市渋谷1016-12
 メール：agree@green.ocn.jp
 agree-sys@excite.co.jp
 HP：http://weeklyart.seesaa.net/auth/article_preview/

**おもしろ体験博物館
江戸民具街道**

神奈川県足柄上郡中井町久所418
 開館時間：10：00～17：00
 休館日：月曜日
 問い合わせ：0465-81-5339

1945年±5年

戦争と復興：激動の時代に 美術家は何を描いたのか



人々の心にキズを負わせた”戦争”という記憶。その時代に多くの美術家たちが葛藤を取り上げてきた作品に、歴史的なものを感しさせる貴重な展覧会。

**激動時代と
美術家**

思まわしい日本歴史上の記録として”戦争”をあえて振り返り、美術家たちの苦難の作品の展覧会に注目したい。

「1945年±5年」展は、1945（昭和20）年は、

を境にして、その前後それぞれ5年間の日本の美術をとりあげる貴重な記録的展覧会となる。その前半は1937（昭和12）年から始まる日中戦争、1941（昭和16）年からのアジア・太平洋戦争の時代、後半は日本が敗戦を迎え、連合国によって占領統治された時代にあたる。日本近代史上、最も激動の時代といえる。

その過酷な時代に美術家はどうのような表現を行い、社会とどのような関係を築いてきたのかを取り上げる歴史的展覧会となる。

**個々の美術家
たちの営み**

戦争が軍事力だけではな

く、国のあらゆる力を総動員して行われる総力戦となったこの時代、美術の活動は厳しく統制され、戦争遂行に協力することが求められました。画家たちは戦争画や、銃後の人々を顕彰する絵などを制作した。しかしながら、戦争画の中にはそれだけに終わらない要素もあり、また個々の美術家の営みは戦争協力に限られるわけでもない。時代の巨大な渦に巻き込まれながらも、美術家たちは多様な動きを見せた。

本展は、こうした動きを油彩画を主とする200点近い作品によって紹介している。

メモ ◆7月30日（土）～10月10日（月）

広島市現代美術館（広島県広島市南区比治山公園1丁目） 電話0822-2641121 一般1030円 大学生720円 高校生65歳以上510円 中学生以下無料 休館日：月曜日、9/20（ただし、9/19、10/10は開館）

**次号は
8月25日発行**

**熱海湾を一望で
き、眺望ナンバー
ワンの美術館**

■MOA美術館（静岡県熱海市桃山町26番2） 電話0557-（84）2511

一般1600円、高校生800円、中学生以下無料、65歳以上1200円 木曜日休（祝日は開館）

JR熱海駅下車／バス4番のりばMOA美術館行8分

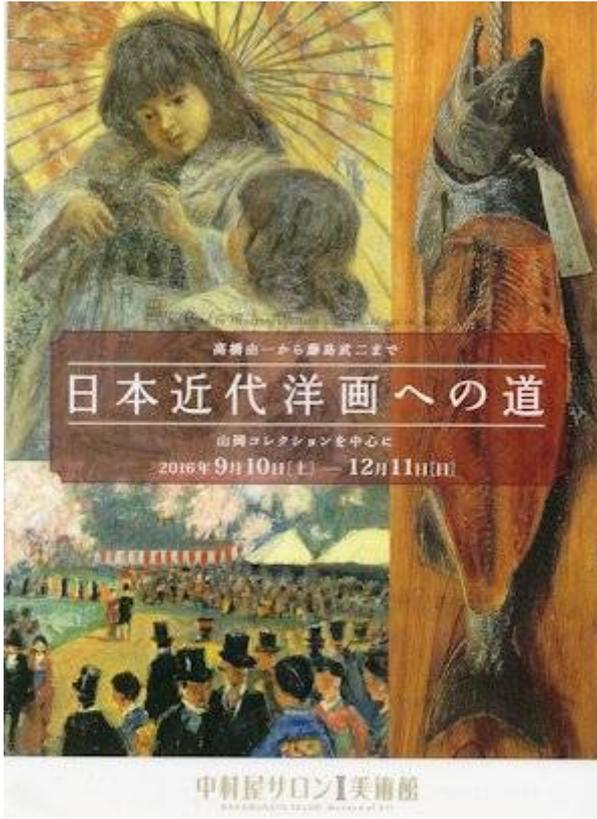
**版画でみる20世紀
展 ピカソから
ウォーホルまで
開催中！**

■諸橋近代美術館（福島県耶麻郡北塩原村大字松原字剣ヶ峰1093番23） 一般・大学生950円、高校生500円、小・中学生200円 毎週土曜日、小・中学生は無料 電話0241(37)1088

高橋由一から藤島武二まで

日本近代洋画への道

中村屋サロン美術館



ヨーロッパの画家から指導

中村屋サロン美術館では「高橋由一から藤島武二まで」日本近代洋画への道山岡コレクションを中心に「展が、9月10日(土)から12月11日(日)まで開催される。

江戸末期、日本は開国により、政治、経済、医学、文化、産業とあらゆる分野において西洋化が進む、大きな転換をしていく。

そんな中、美術業界では、西洋画の持つ写実的な表現に魅了された画家たちによって熱心な研究がなされていく。そして試行錯誤を繰り返しながら、その技術

を習得していった。

画家たちは、来日してきたヨーロッパの画家から指導を受け、明治期に入ると、本格的に西洋画を学ぶためにヨーロッパ留学が流行る。本物のヨーロッパ芸術に触れた画家たちは、日本画壇に新風を吹き込んだ。

展覧会の構成

第1章 江戸幕末の洋画
日本洋画誕生の胎動が本格化するの、蘭学が解禁され、医学や語学などの学問を中心としたヨーロッパ文化が再び移入され始めた江戸時代末期から幕末にかけての時代。

第2章 明治初期留学生と工部美術学校 留学中に他の分野から絵画の道に転向した人もいる。政府が工部美術学校を創立して多くの画家を育て巣立ちさせた。

第3章 明治外光派と浪漫主義 外光派のラファエル・コランに師事した黒田らが白馬会を結成し、洋画界をリード。

水屋・水塚

水防の知恵と住まい 展

水防建築類の写真を中心に

かつて頻繁に洪水に見舞われた地域では、水屋(みずや)・水塚(みづづか)を代表とする住まいが身を守る避難場所として建てられ、地域独特の景観をつくっている。

の写真を中心に、関連の模型、農具などを含め約60点を展示。人々の知恵を生かした「河川伝統技術」による水防建築をとおして、川とともに生きてきた日本人ならではの住まい方を再考する。



水屋・水塚 水防の知恵と住まい 展
本展は、全国の主な洪水常襲地帯に残る水防建築類

◆ 9月8日 (木) ~ 11月26日 (土)

メモ

中村屋サロン美術館(東京都新宿区新宿3丁目26番13号 新宿中村屋ビル3階) TEL 082-2664-1121 一般300円 高校生以下無料 休館日: 毎週火曜日

LIXILギアラリー(東京都中央区京橋3-6-18 東京建物京橋ビルLIXILGINZA2F) 入場料無料 休館日: 水曜日

◆ 9月10日 (土) ~ 12月11日 (日)

メモ

中村屋サロン美術館(東京都新宿区新宿3丁目26番13号 新宿中村屋ビル3階) TEL 082-2664-1121 一般300円 高校生以下無料 休館日: 毎週火曜日

日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選んでの展示

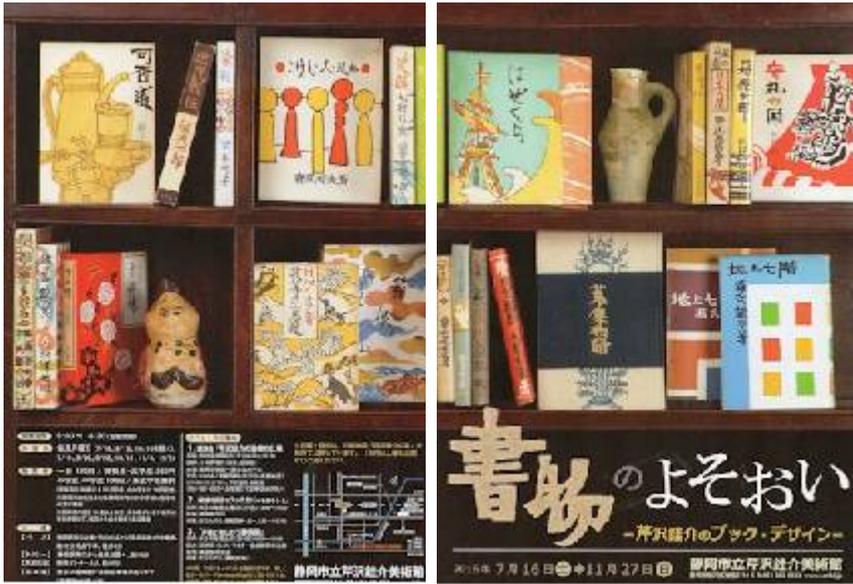
国立歴史民俗博物館(千葉県佐倉市城内町117) 電話03(5777)8600 (5777)8600 ハロウダイヤル 一般420円、高校・大学生250円、中学生以下は無料 月曜日休館

着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本等多岐にわたる

静岡市立芹沢銕介美術館(静岡市駿河区登呂5-10-5) 電話054(282)522 一般410円 高大生250円、月曜日休館

庭園ゾーン、書院ゾーン、体験ゾーン、展示ゾーン

北九州市立小倉城庭園(北九州市小倉北区城内1-2) 電話093(582)2747 会期中無休



多数の著作を手掛ける

芹沢銈介は、デザインの領域に豊かな足跡を残したが、中でもよく知られたものに本の装幀、ブック・デザインがある。

書物のよそおい

芹沢銈介のブック・デザイン

昭和6(1931)年、36歳の時に雑誌「工藝」の装幀を手掛けたのを皮切りに、最晩年まで途切れることなく、様々な本を500冊以上デザインした。そのジャンルは、小説、随筆集、全集・選集など様々。川端

康成や山本周五郎といった著名作家のものや、柳宗悦や外村吉之介といった民芸同人のものまで、多数の著作を手掛けた。本体やカバーだけでなく、箱や扉、カットに至るまで芹沢の手になるものが多く、隅々まで神経の行き届いた構成力、様々な書体、豊かな模様や配色が魅力的。

本展ではその中から約200冊を厳選し、芹沢のあふれるほどのデザイン力を

堪能できる。また、芹沢の着物、屏風、のれんなどの代表作40点を前半部分に展示している。

ブック・デザイン

- あざやかな色と模様
- 「色と模様の天才」とうたわれた芹沢。装幀でもあふれている。
- さまざまな書体
- 初期から晩年まで、書体にもさ

さまざまな変化が見られる。すぐれた文字の造形能力が感じられる。

- 考えぬかれた構成
- 表紙だけでなく、箱やカバー、扉や背表紙までデザインまで、工夫がこらされている。
- 手の込んだ技法・素材
- 型染、肉筆、木版、塩田
- など多彩な技法を用いている。
- 素材にもこだわりがある。

◆ 7月16日 (土) ~ 11月27日 (日)

静岡市立芹沢銈介美術館
(静岡市駿河区登呂5-5)
TEL 054-282-5522 一般420円
高校生・大学生250円
小学生・中学生100円
休館日：毎週月曜(9/19、10/10を除く) 9/20、9/23、10/11、11/4、11/24

特集展示

『延喜式』ってなに!?

国立歴史民俗博物館



さながら「古代の百科全書」

『延喜式』とは? 10世紀に作られた法制書、古代官人の業務マニュアルなんです。そこにはお祭りや宮中で使う物品の原材料、地方から納入される貢納品など、様々な内容が含まれて

おり、さながら「古代の百科全書」ともいえる。

『延喜式』は、全部で50巻からなる大部な内容でもあったため、難しいもの、かたくなるしいものの代名詞のように用いられたこともありましたが、一方で、江戸時代以来、古代のことを調べる時には常に参照されてきた

資料でもあった。本展では、人間文化研究機構基幹研究プロジェクト「古代の百科全書『延喜式』

◆ 8月23日 (火) ~ 9月19日 (月・祝)

国立歴史民俗博物館 第2展示室(静岡県静岡市駿河区登呂5丁目10-5)
TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル) 一般420円 高校生・大学生250円 中学生以下無料 休館日：毎週月曜日(祝日の場合は開館し、翌日が休館)

◆ 7月16日 (土) ~ 11月27日 (日)

静岡市立芹沢銈介美術館
(静岡市駿河区登呂5-5)
TEL 054-282-5522 一般420円
高校生・大学生250円
小学生・中学生100円
休館日：毎週月曜(9/19、10/10を除く) 9/20、9/23、10/11、11/4、11/24

特集

特別展 「ヤワカタな自我～かたくてやわらかいダリの世界～」



ヤワカタ(やわらかい/かたい)からダリの人間性に迫る展覧会。諸橋近代美術館のコレクションより、絵画や彫刻など約50点を展示する。

ダリのパーソナリティを紹介

「柔らかな時計」の呼び名で知られる油彩画《記憶の固執》(1931年、ニューヨーク近代美術館蔵)で、一躍アートシーンの寵児となった芸術家、サルバドール・ダリ(1904-1989)。

本来持つべきはずの硬さを失ってとろりと垂れ下がった時計は、その後のダリ作品の代表的なアイコンとなるほど衝撃的なモチーフとなった。

「柔らかな時計」の他にも、ダリの作品には様々な「やわらかいもの」、そして「かたいもの」のモチーフが登場する。ダリが生涯に渡り異様なまでの執着を見せた「やわらかいもの」と「かたいもの」。

展覧会内容

刻など約50点を展示する。作品に登場する「やわらかいもの」「かたいもの」のモチーフを通して、ダリのパーソナリティを紹介する。



サルバドール・ダリ『シユルレアリスムの34のイメージ』1977-1978年、カラーリトグラフ/紙、48.0x64.0cm 公益財団法人 諸橋近代美術館蔵 ©Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SASPAR Tokyo, 2015 E2163

テーマ1 「柔らかな時計」の誕生 1931年、ダリは後世に語り継がれる作品を制作した。《記憶の固執》(ニューヨーク近代美術館蔵)。

閑散とした風景の中に現れた時計は本来持つべき硬さを失い、とろりと溶けたように木の枝に引っかかっている。

テーマ2 ダリのシエルトー ダリの著作『わが秘められた生涯』(1942年刊)によると、彼の最も古い記憶は母親の胎内の光景だという。ここでは、ダリのシエルトーとなった女性たちを紹介。 テーマ3 「硬」「柔」

の寓意 ダリの出生の秘密やコンプレックスを紐解きながら、「硬」と「柔」のモチーフが示す寓意を紹介。

テーマ4 ダリの「ヤワカタ」なからだ ダリ作品の特徴の一つに、物質が備えている質感を過剰なまでに表現することが挙げられる。このような極端な人体表現が登場する作品を紹介。

メモ

◆9月11日(日) ~ 11月30日(水)

諸橋近代美術館(福島県耶麻郡北塩原村大字松原剣ヶ峰1093番23) TEL 0465-68-1128 一般950円 高校・大学生(学生証持参)500円 中学生以下無料 休館日:毎週水曜日(当日が祝日の場合は開館)

2016年9月4日までの主な展覧会情報

美術館・博物館ガイド

東京都内

●国立新美術館 「ルノワール展」 8月22日まで
 16000円 月曜日休館

●江戸東京博物館 「大妖怪展 土偶から妖怪ウオッチまで」 8月28日まで
 13500円 月曜日休館

●東京都庭園美術館 「子どもとファッション 小さい人たちへの眼差し」 8月31日まで
 8600円 (ハローダイヤル) 一般1100円 会期中無休

●東京ステーションギャラリー 「12 Rooms」 9月4日まで
 3200円 月曜日休館

●三井記念美術館 「ール・ヌーヴォーの装飾

●パナソニック汐留ミュージアム 「ミケランジェロ展 ルネサンス建築の至宝」 8月28日まで
 5777円 8600円 (ハローダイヤル) 一般1000円 月曜日休館

●東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館 「魔法の美術館 光と影のイリュージョン」 8月28日まで
 5777円 8600円 (ハローダイヤル) 一般1000円 月曜日休館

●原美術館 「みんな、うちのコレクションです」 8月21日まで
 651円 一般3445円 月曜日休館

●日本民芸館 「沖繩の工芸」 8月21日まで
 4527円 一般1100円 月曜日休館

●古代オリエント博物館 「古代オリエント美術の愉しみ」 9月4日まで
 3989円 349円 一般1000円 無休

●根津美術館 「はじめの古美術鑑賞 絵画の技法と表現」 9月4日まで
 3400円 2536円 一般1100円 月曜日休館

●サントリー美術館 「生誕170周年 エミール・ガレ」 8月26日まで
 5777円 8600円 (ハローダイヤル) 一般1300円 火曜日休館

●練馬区立美術館 「しあがり寿の現代美術 回・転・展」 9月4日まで
 800円 月曜日休館

●世田谷美術館 「アルバレス・ブラボ写真展」 8月28日まで
 803円 5777円 (ハローダイヤル) 一般1000円 月曜日休館

●板橋区立美術館 「イタリア・ポーロニヤ国際絵本原画展」 8月28日まで
 1000円 月曜日休館

東京郊外

●町田市立博物館 「インドネシア ファッション」 8月28日まで
 1531円 42726円 月曜日休館

●横須賀美術館 「自然と美術の標本展」 8月21日まで
 845円 1211円 一般800円 8/4休館

●茅ヶ崎市美術館 「じぶんのまわり展」 9月4日まで
 467円 881177円 一般500円 月曜日休館

●平塚市美術館 「不思議なアート トリックトリック」 8月28日まで
 3521円 10463円 一般900円 月曜日休館

●静岡市美術館 「エッシャーの世界」 8月28日まで
 273円 1515円 一般1000円 月曜日休館

関東北部

●DIC川村記念美術館 「サイ・トゥオンブリーの写真 変奏のリリシズム」 8月28日まで
 130円 498130円 一般1200円 月曜日休館

●千葉市美術館 「河井寛次郎と棟方志功」 8月28日まで
 220円 12311円 一般1200円 無休

●国立歴史民俗博物館 「よみがえれ! シーボルトの日本博物館」 9月4日まで
 5777円 8600円 (ハローダイヤル)

●埼玉県立歴史と民俗の博物館 「高麗郡1300年物と語り」 8月31日まで
 645円 8171円 一般600円 月曜日休館

●栗田美術館 「江戸後期の伊萬里焼」 8月28日まで
 91円 1026円 一般1250円 月曜日休館

●群馬県立近代美術館 「鴻池朋子展 特異な空間へ」 8月28日まで
 560円 27346円 月曜日休館

ルネ・ラリックの生涯と出会う

●箱根ラリック美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1) 電話0460(84)2255 一般1500円、大学生・高校生・シニア(65歳以上)1300円、中学生・小学生800円年中無休

からくり人形な関係資料多数展示中

●江戸民具街道(神奈川県足柄上郡中井町久所418) 電話0465(81)5339 月曜日休館

箱根の景観と自慢のスウィーツを染しめず

●箱根写真美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300) 電話0460(82)2717 火曜日休館 毎週土曜日は夕方5時まで営業

Art Topics

特別展として開催するこの没後25周年展は、中川一政の作品と二政コ

レクションのゴッホやセザンヌ、ルソー、ピカソの作品及びブールデルの作品、また中川邸の壁に埋め込

まれていたレリーフ、花の絵を描く際に使用されたマジヨリカ壺や、中国の八大山人、石濤、沈周石田らの

中川一政没後25周年展

絵画、一休宗純、大燈国師ら禅宗の名僧の墨蹟等が展観できる。

中川一政美術館

メモ

◆8月4日 (木) ~ 11月29日 (火)



中川一政美術館 (神奈川県足柄下郡真鶴町真鶴1-1-78) TEL 0465-68128
一般60円 高校生以下350円 休館日：毎週水曜日 (当日が祝日の場合は開館)

伊藤久佳 陶展



Hsaka ITO Exhibition
Art Gallery LOS PINOS
Aug.26 - Sep.11, 2016 (Wed. closed)

Art Gallery LOS PINOS & Cafe

当ギャラリーでは2014年9月から2年ぶり、5度目の個展となる。

伊藤久佳さんは、兵庫県川西市生まれ。メキシコにて、陶芸指導と制作。現在兵庫県の三田市の工房にて制作中。



◆アートギャラリーロスピノス 藤沢市南藤沢7-102 TEL 0466-20006

来場者50万人突破!!

現在開催中のルノワール展

50万人目に
記念品

4月27日(水)に開幕し、今月22日(月)まで開催中の「オルセー美術館・オルセー美術館所蔵 ルノワール展」は、8月4日(木)をもって、来場者が50万人を突破した。

8月4日、会場である国立新美術館(東京・六本木)で記念セレモニーを執り行い、50万人目の来場者に、主催者より記念品として展覧会図録とオリジナルトートバッグ、《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踊会》の額絵が贈呈された。

本展は、ルノワールの愛した主題である肖像や風景、現代生活、子どもたち、花、裸婦などを、全10章にわたって紹介している。

本展の大目玉は、ルノワールが35歳の時に描いた最高傑作《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの舞踊会》は、縦131.5cm×横176.5cmの大きさで、作品から10mほど離れた場所にベンチが置かれ、そこに腰掛け遠くから眺めても、違った魅力を発見できる。オルセー美術館とオルセー美術館が所蔵する、100点を超える作品が展示されている。

編集後記

◆連日厳しい暑さに襲われ、取材に出かける意欲を減退させてしまうほど。世間の企業では「夏休み」に突入し、家族や仲間たち、恋人たちと旅行などに足を運んでいるようで、ちょっと羨ましい感じがする編集部です。美術館や博物館では、皆さんたちが夏休みに入るシーズンこそ、観戦のピークになりますので、取材する側も常に「取材待機状態」なので、仕方がない状態です。

◆この暑い夏が過ぎれば、涼しい風とともに「芸術の秋」がやってきて、一気に編集部もあちこちへと取材に飛び立つ日程の打ち合わせが始まり、活気が戻ってきます。編集部としてはとても心身が盛り上がるシーズンでもあります。

◆本紙は、お陰さまでもって発刊するたびにアクセス数が増えている現実業界関係者・一般アクセス読者に感謝するとともに、新聞発刊にさらなる努力の必要性が今以上に欠かれないものと思っています。